

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901522		
法人名	有限会社 ライフサポート		
事業所名	グループホーム愛あい		
所在地	旭川市川端町2条5丁目2番3号 (電話) 0166-53-9898		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年3月18日

【情報提供票より】 (21年 1月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月 18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8人 非常勤 4人 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 17,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (1月 19日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	75歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むらい内科クリニック、かむい歯科診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年3月で5年目を迎えるグループホームである。周辺に学校や緑が多い閑静な住宅街に、しっかり地域に根ざして建てられている。ホームとして特に力を入れていることは「食べる楽しみ」を持ってもらうことで、一人ひとりの嗜好・形態の対応のみでなく菜園作りなど、心身両面から働きかけている。地域への取り組みも高校・大学のボランティアを定期的に受け入れ、ケアの実践経験の還元を行なっている。町内会の老人会への参加も予定されており、地域との交流に積極的に努めている。ホームの理念である「和気あいあい」と利用者・職員・地域の方々が豊かな人間関係を保ち、支えあって暮し、今後も期待されるホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題についての取り組みは、職員と一緒に話し合われ改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価の目的、意義を十分に理解しており、所長、管理者、責任者が意見をまとめ作成している。外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて会議で報告し、サービスの質の向上に努める予定である。報告書はホーム内に掲示し、運営推進会議でも経過について報告される。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者、家族、町内会役員、ホーム関係者の参加により3ヵ月に1度運営推進会議が開催されている。しかし、会議を構成するメンバーに地域の関係者が少なく、家族と職員が大勢を占めるなど、本来の会議の趣旨から十分とはいえない。運営推進会議では、現況報告や交流にとどまらず、現参加者のほかに行政職員や見識者、地域住民、包括職員等の幅広い立場の参加により、率直な意見をいただき、防災協力依頼や事業運営に反映出来る内容での開催を期待する。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りを努めている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。家族の訪問も多くあり、その都度近況報告や要望を聞き運営に反映させている。今後は、利用者一人ひとりの様子を使いやすさや通信でお知らせできる取り組みが期待される。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入することで交流の機会を作り、利用者とともに町内の祭りへ参加したり、ホーム開催の行事への誘いかけも行なっている。地域の高校生が毎週ボランティアとして訪問があり、利用者の楽しみのひとつとなっている。今後は地域にある「憩いの家」でのサークル活動(カラオケ、ストレッチ、介護体操等)へ参加出来るよう検討されている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和気あいあいと楽しく、ゆったりと安心して暮らしていただけるよう」と独自の理念が作られている。項目の中に「地域や自然に触れ合いながら、ご家族や町の人々との行き来を大切にいたします」と説明がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の随所に運営理念が掲げられ、日々意識する事でケアサービスの実践に取り組んでいる。毎月の全体会議の中でも確認され、利用者や家族との係わりの中でも会話に盛り込んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入することで交流の機会を作り、利用者とともに町内の祭りへ参加したり、ホーム開催の行事への誘いかけも行なっている。今後は利用者が「憩いの家」でのサークル活動（カラオケ、ストレッチ、介護体操等）への参加に向け検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価の目的、意義を十分に理解しており、所長、管理者、責任者が意見をまとめ作成している。今後は外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて会議で報告し、サービスの質の向上に努める予定である。		

旭川市 グループホーム 愛あい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、町内会役員、ホーム関係者の参加により3ヵ月に1度運営推進会議が開催されている。しかし、会議を構成するメンバーに地域の関係者が少なく、家族と職員が大勢を占めるなど、本来の会議の趣旨から十分とはいえない。	○	運営推進会議開催の目的は、報告や情報交換にとどまらず、現構成員のほかにも行政職員や見識者、地域住民、包括職員等の幅広い立場の人の参加により、率直な意見をいただき、防災協力依頼や事業運営に反映出来る内容での開催を今後期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ホームの状況報告や介護保険業務に関する相談や生活保護ケースワークと交流など、適宜話し合いの機会を持ち協働関係を継続している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問も多くあり、その都度近況報告や要望を聞いている。家族には、毎月請求書・金銭出納記録を渡し、確認捺印をいただいている。ホーム内に職員全員の写真と紹介が掲示されている。	○	ホーム便りや通信がなく、行事のアルバムなどが用意されているが、利用者一人ひとりの暮らしぶりや近況が伝えられるような仕組みがあると、家族との信頼関係も深まり、安心につながるため検討を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	所長や管理者は、利用者と馴染みの関係を継続することを大切にしている。新任職員採用の際には、所長が一月をかけて一緒にケアに係わる事で、利用者への影響に配慮した支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所長は人材育成の重要性を認識しており、案内の掲示や、必要な研修を判断し、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも交替で参加し、参加後も職員間での報告が行なわれ、共有も図られている。また、資格取得に際しても一部費用負担の援助もされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加盟しており、道北ブロック研修会などでほかの関係者と交流しながら、情報収集や意見交換を行っているが、同業者との直接的な交流は行なわれていない。	○	責任者だけでなく、ほかの職員も含め、ほかのホームの見学や学習会、研修などで相互交流の機会を設け、ホームが孤立しないよう、サービスの質の向上や職員育成への取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分に面談を行ない、見学した後に入居となっている。利用者のペースで馴染むことができるよう配慮し、利用者や家族が安心して納得できるよう、適切なサービス開始の調整を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はともに生活する事で、利用者一人ひとりの得意な事を見極め、場面作りの支援が行なわれている。また、利用者の生活歴から料理や野菜の栽培、縫い物等について、日々支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者情報を詳細なアセスメントにより一人ひとりの思い・希望を取り入れ、日々のケアに活かしている。職員は暮らしの中から利用者本位を基本にプランに反映させ、利用者の立場に立った考えで検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は職員と話し合いながらケアに反映させているが、介護計画の目標やケア内容に対しての記録が連動出来るような書式になっていないため、介護者主体の記録になっている。記録から評価の検討が出来ない。	○	担当職員はアセスメント記入やモニタリングに合わせ、日常の記録が利用者本位に細かく記録する習慣がなく、介護計画書の目標に対して、連動して記載する仕組みになっていないため、今後は効果的に評価ができるように記載方法の検討を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成した介護計画書は6ヵ月毎に定期見直しを行なっている。さらに、毎月担当者会議を開催しモニタリングを行なう際には、スタッフの日頃の気付きを出し合いながら、利用者の状態変化に応じた計画変更も随時行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎やドライブ、必要品の買物など、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。また主治医より他科の受診依頼時にも適切に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者の希望する医療機関へ定期的に通院同行し、状態の報告、聞き取りを行ない家族に報告している。また、ホームでは協力医療機関との提携により日常的に健康管理が継続して行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	説明書に重度化や終末期に向けた指針が記載されており、家族と方針を共有し同意をいただいている。医療機関とも連携が取れており、定期的健康管理が行なわれ、要望により重度化・終末期への対応が整備されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が利用者のプライバシー確保や誇りを損ねないことの必要性を認識しており、尊厳を守る取り組みが行なわれている。個人情報の各種書類についても慎重に取り扱っているが、使用目的の説明や同意をいただいているわけではない。	○	お便りの写真の掲載や室内での掲示、名前の表示、面会簿の記載などについて、利用者や家族に使用目的の説明、プライバシー保護について確認できるよう整備を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが強制することなく、職員は一人ひとりを尊重し、体調や生活歴を大切に、その人らしい生活となるよう支援している。また、地域で交流出来るように「憩いの家」への通いが出来るよう検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの食事の好みを取り入れ、多彩な手作りメニューとなっている。各テーブルに職員が同席し、同じ食事を取りながら、楽しく食事ができるよう支援している。また、食事の準備や後片付けも一緒に行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に曜日は決まっているが、週2回は入浴できるようにしている。夜間や早朝も希望があれば可能で利用者が寛いで入浴できるよう支援している。必要に応じてシャワー浴や清拭も、さりげない声かけで行なわれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活に生きがいを感じるような役割（食事の準備、片付け、趣味創作活動等）、利用者のペースに合わせた係わりが出来るように支援している。また、花壇の手入れや買物、ドライブなど状況に合わせ、気晴らしの支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物に出かけている。行事計画に拘らず、天気の良い日には季節を感じられるドライブを楽しんだり、市内や町内会の各種行事にも見学や参加をしている。ホーム内に閉じこもることのない支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけない暮らしの大切さは十分に認識しており、日中は鍵をかけることもなく、自由な出入りがあり、訪問者も多く開放的になっている。センサーにより精神的不安の解決となっている。		

旭川市 グループホーム 愛あい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と職員の参加により、年に2回消防署や設備会社の協力で避難訓練を実施している。救急・救命講習の研修を受けている職員もおり、緊急時に地域からも協力がいただけるような関係作りに取り組む予定ともなっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を個人別に記録しており、職員は情報を共有している。利用者の状態に応じた調理方法を工夫するなど、バランスの取れた食事内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく開放的でソファや椅子が多く設置され、利用者は思い思いの場所で過ごせる空間となっている。リビングは天窓からの太陽光で明るく、畳の小上がりもあり、利用者にとって快適な居場所作りに配慮されている。光・音・温度・湿度等も適宜調節されており、一日を過ごす憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者によって、使いやすいように家具やベットが持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしている。今までの生活と変わる事のないよう、精神的負担を軽減出来るように配慮がなされている。ロスナイの利用により換気も十分に行なわれている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。